

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜県立大垣南高等学校学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和3年6月21日(月) 13:00~15:00
- 3 開催場所 大垣南高校会議室
- 4 参加者

会長	竹内 治彦	岐阜協立大学学長
委員	五十川智宣	大垣ケーブルテレビ取締役、同窓会副会長
	今村あおい	(株) 新生メディカル取締役部長
	小林 月子	サンブレッジ国際医療福祉専門学校校長、元岐阜大学教育学部教授
	小山亜希子	(社福) 楽山・社の会理事
	酒井 吾郎	洲本連合自治会長
	竹中 拓也	太平洋工業株式会社人事開発部長
	藤田万喜子	岐阜聖徳学園大学教育学部教授
	三輪 賢司	岐阜県公民館協会会長、元岐阜県小学校校長
	栗田 俊彦	大垣南高等学校育友会長
オブザーバー	伊藤 秀光	岐阜県議会議員
学校側	藤吉 和彦	校長
	楠井 徳之	教頭
	北村 直也	事務長
	北原 剛	教務部長
	鈴木 元宏	生徒指導部長
	久保田信孝	進路指導部長

5 会議の概要 (委員のご意見)

学校概要及び学校運営基本方針説明、授業見学について

意見1: 企業の人事を担当しているが、昨今の入社してくる大学生は非常に優秀である。勤勉で語学能力が高いなど素晴らしい反面、失敗に対して非常に恐れをいっている。失敗を恐れず、自ら進んで火中の栗を拾いに行くようなバイタリティに富んだ学生が欲しい。また、学校現場では、そういった学生を育ててほしい。キャリア教育についても一般社会からの刺激があるとよいのではないかと。

意見2: 優秀な生徒は必ずしも地元には残らないことも多いが、本校を卒業して、地元で活躍している人は多い。

意見3: 今日の説明を受け、コロナ禍で学校としての個性を出そうとしていると理解した。地域社会に貢献するという意味では、現市役所の幹部が本校出身であるということから、貢献できていると思う。今後、現在の在校生徒がどうなるかが課題である。

意見4: 学校側の説明にある「自己有用感」については、自分の頑張ったことを可視化できるとよい。自らを省みて、自ら肯定することができる自分から学習に向かう姿勢を作っていけるのではないかと。

意見5: 黒板がホワイトボードに変わっていることや、ICT機器を利用した授業などに驚いた。生徒の真剣な学習姿勢、先生方の熱意を感じた。ふるさと教育の授業も見たい。

意見6: 生徒同士で話し合ったり、工夫し合ったりする授業がみられてよかった。運営方針について、自己有用感が大切である。どうやって自己有用感を感じるかは難しいが、一つは、体験活動ができるとよいと考える。

意見7: どのように変化するか分からない世の中で、地域の課題に関心を持ち、自分の考えを持ち決断できる生徒を育てたい。実際に課題を体験し、自分にやりたいことを考え、選択できる学生になって欲しい。相手を知り、地域を知り、自分を知ることができるような体験を踏まえたカリキュラムを作ってもらえるとよい。

意見8: (教師からの) 一方的な授業がやや多い印象であった。生徒が体験するような授業が必要なのではないかと。ICTを活用して、世界と繋がることを体験させるような授業をお願いしたい。

- 意見9：建学の精神の「堅実真摯」やクラス目標の「凡事徹底」などやや実業高校的ではないかと感じる。西濃地区の進学校として「自立した知識人を育てる」「自ら創意工夫する」などの内容が必要とされるのではないか。
- 意見10：スマホをもって自転車を片手で運転をしている生徒を見かけなくなった。地域社会からみて、この数年、本校生徒が良くなっていると感じている。
- 意見11：コロナへの対応において、臨時休校など未経験の中ではあったが、学習保障についてなど上手く学校経営をしていただいていると感じている。
- 意見12：学校が果たす社会的役割の中に「自己有用感」という言葉があるが、趣旨を踏まえると「自己効力感」としたほうが望ましい。

6 会議のまとめ

第1回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。まだ、ICT化への対応などがやや遅れていると考えているが、今後は体験活動などをICTの利用をすることでより進めていきたい。

また、体験活動を通して、立場に立って考えられる思考力を身につけるためにも、他の学校や機関、地域の方々との連携を深めていきたいと考えている。